

2011年10月27日

陸上自衛隊北部方面總監
陸 将 千 葉 徳次郎 様

北海道平和運動フォーラム
代 表 江 本 秀 春
代 表 山 田 剛

陸上自衛隊「戦車の公道自走」の中止を求める申し入れ

陸上自衛隊第7師団は、11月10日から大分県・日出生台演習場で行われる演習に参加するため、11月6日に東千歳駐屯地から国道36号線などを使用し苫小牧港西港までの32kmの区間で、90式戦車4両などを走行させることを明らかにしました。

言うまでもなく、戦車は自然や建物を破壊し、尊い人命を奪う悲惨な戦争に「使用される」軍事車両です。その戦車が、公道を自走することは「有事」を想定させ、多くの市民に不安を与え、日常生活を脅かすものであり断じて容認できるものではありません。

公道を使用することは、地域住民に対する不安、戦車走行による「騒音」の被害、交通安全上の問題、公道破壊の危険性、動植物に与える影響など多くの問題が発生することが考えられます。

今回の訓練は、昨年閣議決定された「新防衛計画の大綱」にもとづく南西地域の防衛体制の強化が目的で、自衛隊としては過去最大規模の参加とされています。「新防衛計画の大綱」は、中国や北朝鮮を仮想敵国に想定し、これまでの「専守防衛」の概念から逸脱する「動的防衛力」を構築し、とりわけ南西諸島の防衛強化をめざしており、いたずらにアジア太平洋地域の国々に対する緊張感を煽り、平和と安定を脅かすものと言わざるを得ません。

このように今回の戦車の公道自走は、「有事を想定した軍事的な自走訓練」であり、日本を「戦争をする国」に導くもので断じて認めることはできません。

つきましては、下記のとおり申し入れますので、誠意ある対応を要請いたします。

記

道民の安全・安心を脅かす「戦車の公道自走」を中止すること。

以 上